

とちぶん会報

No.69

2022年10月10日

栃木県文芸家協会 発行人 福田 三男
事務局／栃木県下都賀郡壬生町中央町 16-18 三上方

夏季講演会を3年ぶりに開催

3年ぶりの夏季講演会を無事に開催することができました。

8月28日(日)の午後1時30分から栃木県教育会館において、講師に文星芸術大学教授の堀江一郎先生をお迎えし、「アートとエンターテインメントの間ー「分業」による作品制作についてー」の演題で行われました。

新型コロナウイルス感染拡大により、栃木県においては「BA.5 対策強化宣言」が発せられていましたが、感染防止に充分留意しながら15名の参加者が熱心に耳を傾けました。

堀江先生は小学館編集部にも長く勤務し、その後文星芸術大学美術学部においてマンガについての教鞭をとっておられます。

講演内容はマンガ編集を長年担当していた豊富な経験に基づいて、マンガ制作の裏側にはどんな方たちが携わっているのか、またそれが文学、映画、舞台、音楽にも共通した分業体制(共同制作)であることを教えてくれるものでした。参加者はパワーポイントの画像を見ながら熱心に耳を傾け、あっという間の90分でした。

第2回編集会議を開催・『朝明』第11号は編集へ

朝明第11号の原稿提出は9月末日に締め切り、総数80編(前号は85編)の作品が集まりました。各部門の提出数は以下のとおりです。()内の数字は前号のもの。

- ・創作(小説) 11編(9) ・評論 2編(3) ・随筆 14編(15) ・詩 10編(9)
- ・短歌 11編(14) ・俳句 3編(5) ・川柳 6編(8)
- ・特集「安らぎー小さな集まりー」 23編(22、テーマは「ときめいた時」)

10月6日(木)に第2回編集会議が宇都宮市中央生涯学習センターで開催され、各部門の編集委員7名による原稿確認・編集作業が行われました。表紙デザインについては、粕谷圭司氏の彫刻「絆」の写真に決定しました。

次回の第3回編集会議は、「おかりや」にて11月10日(木)午後3時からを予定しています。

会員から多額の寄付をいただきました

今年度から会員による寄付を受け付けることになりましたが、9月30日現在で、52件230,000円の寄付金が入金されましたことを報告いたします。この中には随筆部門元会員、石田トミ様のご遺族様からのものも含まれています。

寄付金は、今後協会の安定的な財政運営のために使われることとなります。

誠にありがとうございました。

『創作への志』 会員通信 No.24 川柳部門 石寄 敬子

下野新聞にジュニア俳句のコーナーがある。月一回、塾生4名が毎回欠かさず投稿している。小学生が作るので、切れ字は使わない。難しい季語も使わない。シンプルな表現を心がける。これは私の川柳作りにも共通している。

「今日学校で何があった」「卒業式の準備」「準備って何」「6年生の教室の黒板に桜の絵描いた」「それいいじゃん」こんな感じで進めていく。校庭の桜より、5年生が描く桜の方が送る側の想いが伝わる。自分が指導受けたことを、子どもたちに伝えることで、実践している。このときの一句が「卒業生へ満開の桜の絵」だ。

「秀」は逃したが、私の心にグッときた。このグッとくる瞬間を文字にすることが、私の目指す川柳である。

§ 新会員紹介 §

- ・小説部門 小林 千枝子[小山市]
- ・小説部門 吉田 稔 [宇都宮市]

§ 寄贈書籍の紹介 §

- 「川柳の神様Ⅱ－秀句の誕生と鑑賞－」三上博史著／発行所・新葉館出版／発行日・2022年2月11日[著者からの寄贈]
 - ・著者が20数年にわたって、川柳句集やアンソロジー、川柳大会誌等からピックアップした秀句を解釈・鑑賞してきたもので120句が載せられている。現代川柳とはこういうものだという紹介にもなっている。本書はシリーズ化されて、すでにⅠが2019年12月に発行され、今後はⅢの刊行が予定されている。なおⅠ・Ⅱとも今回電子書籍化された。127ページ
- 「詩集 朝の花」岩本久美子(美鳳)著／発行者・岩本久美子(美鳳)／発行日・2022年3月1日[著者からの寄贈]
 - ・「岩本美鳳」に続く著者の第二詩集。46編の詩作品が作成順に並び、併せて著者自身による生け花作品の写真を載せている。111ページ
- 「那須の緒 第15号」／発行所・貝塚津音魚／発行日・2022年1月24日[発行所からの寄贈]
- 「那須の緒 第16号」／発行所・貝塚津音魚／発行日・2022年5月14日[発行所からの寄贈]
- 「那須の緒 第17号」／発行所・貝塚津音魚／発行日・2022年9月17日[発行所からの寄贈]
- 「道、ふたり」石塚蓉子著／発行日・2022年6月[著者からの寄贈]
 - ・(一)日常、(二)追憶、(三)妻、(四)試練、(五)行く道ひとつ、の5章から成り立っている夫婦と息子一人の家族の物語。63ページ
- 同人誌「r e r a」創刊号／編集・生きがい創造舎／発行所・生きがい創造舎 事務局／発行日・2022年6月6日[発行所からの寄贈]
 - ・7名の作家による短編小説が収められている。当協会からは、大泉耀子(古谷耀子)、相馬龍久、島田トミ子、柴崎幸子、福富陽子、鈴木めぐりの6名の会員が作品を寄せている。55ページ

* ∞ * 事務局通信 * ∞ *

今年度の事業計画として、夏季講演会を無事開催することが出来ました。朝明第11号の発行準備も着々と進んでおります。特集は前号を上回る作品数の提出がありました。コロナ禍が続き、依然として曇り空のような世の中がずっと続いています。そういう状況だからこそ、何か安らぎがあると心は救われるものです。ほんの小さなことでもほっとします。今回は「集まり」ということに焦点を当てて心安らぐ文章を会員から寄稿していただきました。些細なことの楽しさ・嬉しさが積み重なって、日々の生活の中に潤いを感じられるのかもしれない。来年1月の朝明第11号合評会は3年ぶりに何とか開催したいものです。(三上)